

「第6回 女性研究者の意見交換会」の開催報告

先般、ご案内のとおり、11月5日にランチミーティング形式で「第6回女性研究者の意見交換会」を実施しましたので、ご報告いたします。

1. 日時 2013年11月5日(火) 12時00分～13時05分
2. 場所 経営学部1号館 8階 第4会議室
3. 参加者 女性教員9名(教育人間科学部1、国際社会科学研究院3、工学研究院3、環境情報研究院1、都市イノベーション研究院1)
山田副学長、有松事務局長、山中人事・労務課長、望月人事・労務課副課長、岡藤人事・労務課専門員、栗田氏(文化庁より研修)
4. 意見 (1)大学入試センター試験時の対応について
 - ・大学として業務軽減などに対する決まりなどがあるとよい。
 - ・学科内の教職員数に応じた業務の分担がなされるとよい。
 - ・早い時期に担当業務が周知されるとよい。
 - ・ライフイベント時や傷病時などに、業務軽減の希望や“こうした業務はできる”ということを伝えられる仕組みがあるとよい(ex. 妊娠初期のインフルエンザ対策、授乳期の対応として)。
→個人差、情報の回し方、部局による違い、タイミングの問題などがある
 - ・センター試験時の一時保育はありがたい。
→リスニングが再試験になった場合、保育のお迎えなどに支障がでること、大学院入試の時に保育園の行事と重なって利用できなかったことがある
 - ・職員のなかにも配慮が必要な方々はいる。⇒①入試委員会が家族に受験生がいるかを教職員に調査をする際に、「妊娠・育児・介護・健康上の理由の有無」も併せて尋ねること、②担当業務の早期連絡、を提案。
様々なやむを得ない事情を持つ人へ配慮する文化を学内に創ることが大切。
- (2)その他
 - ・非常勤職員の自宅勤務について
 - ・子供の病気などライフイベントに伴う理由で、臨時的に車の入構証発行を希望する場合の対応について(→男女共同参画推進センターへご相談を)
 - ・台風など緊急時の対応について

※次回は、新年に行う予定です。

※意見交換会で出された「大学入試センター試験時の対応」についてのご意見は、男女共同参画推進センターで取りまとめて学長等へ提出いたします。これからも、お気軽に皆様の声をお寄せいただければ幸いです。引き続き、ご支援、ご協力をどうぞ宜しくお願いいたします。